

## 無利子化措置導入下での利子助成対象者の投資動向（全体概要）

平成 22 年 9 月

文中の数値は、断りのない限り 19～21 年度までの 3 ヶ年平均値である

### 要旨

平成 19 年度から 21 年度まで農山漁村振興基金による無利子化措置が導入されたが、この間の利子助成対象者の投資動向と無利子化措置の影響は次のとおり。

利子助成交付決定件数は 3 ヶ年で 18 年度の 5.4 倍、金額ベースでは 6.0 倍と倍増した。無利子資金の占める割合は 84% で、資金需要が高かったのは無利子化措置によるところが大きく、農家の経営改善意欲に十分応え、農家の経費負担減に大きく貢献したと思われる。

無利子化措置導入でほとんどの資金使途で大きく増加したが、特に増加したのは更新期と重なった農業機械の購入で、今や農業機械が農業経営に不可欠のなった現状を浮き彫りにするとともに、省力化・規模拡大に貢献したと思われる。

これら投資内容や利子助成対象者の経営内容は 3 ヶ年ほぼ同様に、無利子化措置導入により同じような効果が 3 ヶ年続いたことになる。経営部門ごとには経営環境の変化による違いはあるが、全体では条件が同じであれば同じ効果が出るということであろう。

1 億円以上の投資が増加し、大規模農家の経営拡大意欲に応えたばかりでなく、小規模の個人農家や法人経営の借入者も増加し、クイック融資導入による手続きの簡略化の影響もあろうが、小口資金需要も増加した。

原油価格や穀物価格等の高騰による影響も無視できない。この間、デフレ下で農産物価格が低迷する中、経営費が増大し農業所得が低迷したが、投資内容にも反映されている。

小型のビニールハウスや農機具等が増加し、近年停滞気味であった農業近代化資金は無利子資金とともに 500 万円以下の有利子資金も増加した。一方、施設花きの温室や、計画生産下にある酪農の畜舎への投資が伸び悩むなど大型の固定投資から身近な投資が優先されたところも見られる。

(注 1)用語としては、19 年度から導入されている「無利子化措置」による資金は『無利子化資金』、20 年度から導入された「省エネルギー・低コスト経営支援緊急対策利子助成金」による資金は『省エネ資金』、これを合わせたものを『無利子資金』とし、「無利子資金」以外の資金を『有利子資金』とした。

(注 2)『分析データの取り方』及び『本分析の資金使途の例示』は巻末を参照されたい。

## 1. 利子助成交付決定件数の動き

平成19年度から21年度の3ヶ年間の利子助成交付決定件数は、18年度に比べ農業近代化資金4.2倍、スーパーL資金7.0倍、合計で5.4倍となり、金額ベースでは、農業近代化資金5.0倍、スーパーL資金6.3倍、合計で6.0倍と倍増した。農家の経営改善意欲に十分応えることができたと思われる。

無利子資金の占める割合は、農業近代化資金83%、スーパーL資金85%、合計で84%と高く、資金需要が高かったのは無利子化措置によるもので、農家の経費負担減に大きく貢献した。内訳としては、21年度は省エネの割合が高くなる。

第1表 利子助成交付決定件数

	農業近代化資金				L資金				合計		
	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	有利子	合計
18(A)			3089	3089			2343	2343		5432	5432
19	2642		1966	4608	4912		770	5682	7554	2736	10290
20	2771	103	1550	4424	4346	1138	968	6452	8358	2518	10876
21	1080	1114	1801	3995	1317	1533	1389	4239	5044	3190	8234
計(B)	6493	1217	5317	13027	10575	2671	3127	16373	20956	8444	29400
B/A				4.2倍				7.0倍			5.4倍

第2表 利子助成交付決定金額

(単位：億円、下段割合)

	農業近代化資金				L資金				合計		
	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	有利子	合計
18(A)			166	166			511	511		677	677
割合			100	100			100	100		100	100
19	246		49	295	1088		96	1185	1334	146	1480
割合	83		17	100	92		8	100	90	10	100
20	246	10	40	296	864	286	138	1288	1406	178	1584
割合	83	3	13	100	67	22	11	100	89	11	100
21	97	98	52	246	218	279	256	753	691	308	1000
割合	39	40	21	100	29	37	34	100	69	31	100
計(B)	588	108	141	837	2170	566	491	3226	3431	632	4063
割合	70	13	17	100	67	18	15	100	84	16	100
B/A				5.0倍				6.3倍			6.0倍

## 2. 借入額別割合

無利子化措置導入で 500 万円超の投資が可能となった農家が多く、特に法人で「500 万円超～1000 万円」の借入額が最も多いのが特徴である。

### ア 個人経営

- ・農業近代化資金：有利子である 500 万円以下の割合が 45%で、小口の資金需要は根強いものがある。小口需要の多くは小型農業機械の更新とビニールハウスである。特に 19 年度は原油価格の高騰で簡易なビニールハウス需要が高まった。
- ・スーパー L 資金：「500 万円超～1000 万円」が 42%を占め、無利子化措置の影響を受けたと見られる。1000 万円台での割合も 24%、それ以上の高額な投資も多く、個人経営でも大きな農業投資がされた。なお、小口需要は 500 万円以下で対応できた農地の取得と農業機械が多く、500 万円超は農地の取得と建物・施設が多い。

### イ 法人経営

- ・農業近代化資金：「500 万円超～1000 万円」が 45%を占め、またそれ以上の金額も多く無利子化措置の影響を受けた。個人経営同様、ほとんどが農業機械と施設である。
- ・スーパー L 資金：500 万円以下の割合が低下し、「500 万円超～1000 万円」が大きく増加したが、建物・施設が多い。また、採卵鶏、ブロイラー等の畜産、きのこの投資が大きく、1 億円超の大型投資が増えたのも無利子化措置導入の特徴である。

第 3 表 総括表：借入額別件数割合

借入額 年度	個人経営								法人経営							
	農業近代化資金				スーパー L 資金				農業近代化資金				スーパー L 資金			
	19	20	21	平均	19	20	21	平均	19	20	21	平均	19	20	21	平均
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
5百万円以下	47	40	48	45	16	15	20	17	24	16	22	20	4	5	7	5
5百超～1千	37	48	41	42	43	44	40	42	41	48	45	45	21	20	21	21
1千超～2千	15	13	11	13	24	24	23	24	20	24	20	22	19	20	19	19
2千超～3千					8	8	7	7	7	6	7	7	13	12	9	11
3千超～4千					4	4	3	4	8	7	7	7	7	7	6	7
4千超～5千					3	2	2	2					7	9	8	8
5千超～1億					3	3	4	3					13	13	13	13
1億円超					0	1	1	1					17	16	17	16

### 3 資金使途別割合

無利子化措置導入により全ての資金使途（投資目的）で実質的に増加したが、特に大きく増加したのはトラクター、コンバイン、収穫用農業機械で、これら農機具取得の件数割合が大きく増加した分、割合的には他の資金使途は低下した。無利子化措置導入を機に、老朽化した農業機械を更新した農家が多かったと見られる。

（農業経営基盤強化準備金繰入の仕向け先として、農業機械より農地取得や建物・施設など償還期間が長いほど有利と考えている農家が多く、借入金の使途にも影響があると見られる。）

1件当たり平均借入額（以下、平均借入額）については、農業近代化資金では個人経営 573 万円、法人経営 1452 万円、合計平均 645 万円に対し、スーパー L 資金では個人経営 1104 万円、法人経営 6617 万円、合計平均 2667 万円で、農業近代化資金とスーパー L 資金では 4 倍程度の差がある。

#### ア 個人経営

- ・農業近代化資金：借入件数では、18 年度は建物・施設の取得 52%、農機具の取得 32% であったのに対し、3 ヶ年では農機具の取得が大きく増加し、その割合は 49% に達し、建物・施設の取得 35% を逆転した。しかし、借入額割合では建物・施設の平均借入額が高いため、農機具の取得と建物・施設の取得がほぼ同じになる。
- ・スーパー L 資金：借入件数では、農地取得は 18 年度も 55% を占めていたが、3 ヶ年では農機具の取得が増加したため 47% と低下したものの、最も大きいことには変わりがない。しかし、農地取得の平均借入額が比較的小さいため、借入額割合では農地取得と建物・施設の取得がほぼ同じになる。

農地取得は稲作のほか、畑作のほとんどが農地取得であり、露地野菜、酪農でも多い。平均借入額では建物・施設の取得に次いで家畜の購入が高い。

#### イ 法人経営

- ・農業近代化資金：借入件数では、18 年度は建物・施設の取得 50%、農機具の取得 35% であったのに対し、3 ヶ年では個人経営同様、農機具の取得が大きく増加し 51% を占めた。しかし、借入額割合では建物・施設の取得が農機具の取得を上回る。
- ・スーパー L 資金：個人経営との違いは農地取得の割合が低いのが特徴である。個人は農地を資産としても取得するが、法人は資金面で余裕がないところが多く、また経済性を考慮し賃借によるなど経営スタイルの違いが見られる。

借入件数では、18 年度に比べると農機具の取得割合が増加したため、建物・施設の取得が 43% に減少したものの、平均借入額が建物・施設の取得約 1 億円と大きいいため、借入額割合では建物・施設の取得 3 分の 1 を占める。

第4表 総括表：資金使途別件数割合

資金使途 年度	個人経営								法人経営							
	農業近代化資金				スーパーL資金				農業近代化資金				スーパーL資金			
	19	20	21	平均												
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
土地改良	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1
建物・施設	33	35	36	35	25	22	24	23	32	35	39	35	45	44	41	43
農機具の取得	48	49	51	49	15	17	13	15	55	48	49	51	15	15	16	15
運搬用機具	3	3	4	4	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0
果樹等の植栽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	10	7	5	8	6	4	4	5	6	8	4	6	12	7	6	9
長期運転資金	2	3	2	2	5	2	2	3	1	2	1	1	10	4	2	6
農地取得	-	-	-	0	44	48	50	47	-	-	-	0	13	16	15	15
その他	2	2	2	2	4	7	7	6	5	6	5	5	4	12	19	12

第5表 資金使途別平均借入額(万円)、借入額割合 (平成20、21年度の平均)

資金使途	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合
全体	573	100	1452	100	1104	100	6617	100
土地改良	422	0.4	754	0.2	627	0.2	3657	0.3
建物・施設の取得	682	42.3	2512	38.7	1445	47.7	10229	65.7
農機具の取得	504	43.6	774	8.1	777	34.1	2553	5.9
運搬用機具の取得	220	1.4	500	0.1	709	1.0	1207	0
果樹等の植栽育成	0	0	800	0	0	0	880	0
家畜の購入	757	7.9	2355	6.7	1572	8.5	7888	8.2
長期運転資金	620	2.5	991	1.5	1428	1.7	4234	2.1
農地取得	0	0	1171	39.2	0	0	2727	6.4
その他	466	1.7	1180	5.4	1256	6.2	4762	11.2
不明	473	0.1	1568	0.1	1429	0.6	6738	0.2

## 4 経営部門別割合

これまで農業近代化資金は稲作、施設野菜、施設花きを中心とした耕種部門で多く利用され、スーパーL資金は稲作と畜産部門で多く利用されてきたが、無利子化措置導入により、農業機械の購入増から共に稲作の件数割合が増加し、その分酪農の件数割合が低下したのが特徴である。また、施設野菜は農業近代化資金で増加し、スーパーL資金で減少しているが、投資内容が小型の温室（ビニールハウス）に移行した結果と思われる。

平均借入額については、農業近代化資金では経営部門間ではそれほど大きな差は見られないが、スーパーL資金では融資限度額が大きいこともあり経営部門間で大きな差がある。特に、法人経営の採卵鶏、ブロイラー等の畜舎、きのこ施設が大きく、稲作は相対的に価格の安い農業機械が多いこともあり平均借入額が少ない。

### ア 個人経営

- ・農業近代化資金：農業機械の更新と温室・ハウスの増加を背景に稲作 22%、施設野菜 21%が多く、酪農 8%と施設花き 7%は低下した。原油価格の高騰や穀物価格の高騰で、計画生産中の酪農と施設花き農家の建物・施設の取得への投資が伸び悩んだ。平均借入額は経営部門間に大きな差がないため、借入額割合では稲作 24.6%を占める。
- ・スーパーL資金：稲作 31%、酪農 16%で、酪農の占める割合が若干低下したものの、この2つで依然半数を占めていることには変わりがない。無利子化措置導入で農地取得が増加した畑作の割合が増加していることと、きのこ施設が増加したのが特徴である。

平均借入額については農業近代化資金よりは経営部門間で差があるため、借入額割合では稲作 25.2%、酪農 22.9%など、平均借入額が2倍の畜産の割合が大きくなる。

### イ 法人経営

- ・農業近代化資金：件数割合が大きく増加したのは稲作で 40%を占め、大きく低下したのは酪農、養豚である。なお、「その他」は加工販売事業や作業受託または経営部門の不明なものであるが、法人経営で多い。

借入額割合でも稲作 30.2%が最も大きい。

- ・スーパーL資金：稲作、きのこで増加し、酪農、施設野菜、採卵鶏で低下したため、稲作 21%、養豚 14%、肉用牛肥育 11%、酪農 10%となった。

しかし、平均借入額が耕種に多い農業機械と畜舎建設費に大きな差があるため、借入額割合では稲作 5.4%をはじめ耕種はかなり小さくなり、一方、養豚 18.6%、肉用牛肥育 12.4%、採卵鶏 11.8%など畜産が大きな割合を占める。養豚は個人経営では縮小しているが、法人経営では健在であった。きのこも大きな割合を占める。

第6表 総括表：経営部門別件数割合

経営部門 年度	個人経営								法人経営							
	農業近代化資金				スーパーL資金				農業近代化資金				スーパーL資金			
	19	20	21	平均												
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
稲作	19	21	26	22	29	31	35	31	38	37	45	40	21	19	22	21
畑作	6	5	5	5	6	9	7	8	8	6	5	6	3	4	3	4
露地野菜	10	10	11	11	11	12	11	12	6	8	5	6	6	7	7	7
施設野菜	21	22	21	21	6	5	7	6	5	5	7	6	6	4	4	5
露地果樹	4	5	5	5	4	4	4	4	2	2	3	2	1	2	3	2
施設花き	6	7	7	7	6	5	4	5	5	6	4	5	4	4	2	3
工芸作物	8	7	7	8	5	4	3	4	5	3	4	4	3	3	2	3
酪農	8	8	7	8	18	17	12	16	9	9	6	8	10	11	8	10
肉用牛肥育	8	5	2	5	7	5	5	6	6	6	4	5	12	8	12	11
肉用牛繁殖	5	6	4	5	3	3	2	3	0	1	2	1	1	1	0	1
養豚	1	1	1	1	2	2	3	2	2	6	4	4	12	15	14	14
採卵鶏	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	2	8	5	7	7
ブロイラー	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	3	3	3	3
きのこ	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	6	5	2	4	3	3
その他	2	3	2	2	2	2	2	2	7	4	4	5	7	8	9	8

第7表 経営部門別平均借入額(万円)、借入額割合 (平成20、21年度の平均)

経営部門	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合
全体	573	100	1452	100	1104	100	6617	100
稲作	612	24.6	1143	25.2	862	30.2	1870	5.4
畑作	631	5.4	1248	7.1	909	4.5	3546	1.9
露地野菜	488	9.1	1013	8.0	914	5.3	3619	3.4
施設野菜	493	18.4	1269	5.1	1360	7.1	3638	2.1
露地果樹	452	3.9	855	2.4	676	1.3	1866	0.6
施設花き	566	6.8	1289	4.1	1034	4.5	2520	1.1

工芸作物	496	6.4	1054	2.7	975	3.1	5493	1.9
酪農	703	8.8	2301	22.9	1259	8.4	6030	8.2
肉用牛肥育	873	5.3	2705	9.8	1738	7.8	9137	12.4
肉用牛繁殖	644	5.6	1413	2.7	1214	1.4	2763	0.3
養豚	864	1.2	2765	3.9	1717	7.1	9097	18.6
採卵鶏	805	0.3	3146	0.9	1478	1.8	13955	11.8
ブロイラー	824	0.4	3338	1.6	2895	1.8	13529	5.1
きのこ	729	1.2	1036	0.4	1825	7.6	12861	6.9
その他	514	2.1	1049	1.5	1021	3.8	10614	6.3

## 5 農業粗収入別割合

小規模農家の方が農業近代化資金を利用者していることは明確であるが、農業近代化資金利用者でも大型農家は多い。しかし、個人経営、法人経営ともに農業粗収入 2 億円以上の大規模経営（畜産が多い）ではスーパー L 資金になる。

### ア 個人経営

- ・農業近代化資金：18 年度に比べ、農業粗収入 1 千万円未満農家の割合が増加した。農産物価格が低迷していることもあるが、無利子化措置導入に伴い小規模の農家も資金を利用しやすくなったものとみられる。
- ・スーパー L 資金：小規模層の増加は農業近代化資金ほど認められず、規模面での変化はあまり見られない。農業近代化資金に比べ 5 千万円以上の大規模農家が多くなり、融資限度額が大きく大型投資に対応できるスーパー L 資金の利用が増える。

### イ 法人経営

両資金ともに、個人経営と比べ大規模農家の割合が高い。

個人経営同様、農業近代化資金は小規模層が増加し、スーパー L 資金も中小規模層の増加が見られ、各層で無利子化措置の恩恵を受けたことを示している。

- ・農業近代化資金：個人経営同様、農業粗収入 1 千万円未満の割合が 19 年度には 12% もあり、無利子化措置導入を機に小規模の法人も投資意欲が出たと見られるが、全体的には個人経営に比べ規模は大きく、5 千万円以上層が半数を占める。
- ・スーパー L 資金：農業粗収入 5 千万円以上で 74% を占め、2 億円以上が 35% もおり、大規模層の大型投資に対応している。

第 8 表 総括表：農業粗収入(売上高)別件数割合

農業粗収入 年度	個人経営								法人経営							
	農業近代化資金				スーパー L 資金				農業近代化資金				スーパー L 資金			
	19	20	21	平均	19	20	21	平均	19	20	21	平均	19	20	21	平均
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
1千万円未	23	23	23	23	13	14	16	14	12	6	6	8	3	4	5	4
1千～2千	31	31	33	32	25	23	22	23	7	10	13	10	4	4	4	4
2千～3千	17	20	19	19	20	21	21	20	12	12	13	12	4	7	5	5
3千～4千	10	10	10	10	14	15	13	14	13	10	11	11	5	7	6	6
4千～5千	6	6	6	6	9	9	9	9	7	10	9	9	6	5	6	6
5千～1億円	9	8	7	8	14	13	12	13	27	26	24	25	21	19	18	19
1億～2億円	3	2	2	2	4	4	6	5	14	16	13	14	19	20	21	20
2億円以上	1	0	0	0	2	2	2	2	9	11	11	10	37	34	35	35

## 分析データの取り方

分析数値は、当協会に提出された経営改善資金計画書に記載されたもので、かつ下記条件であるため利子助成対象者全体のデータではない。

経営改善資金計画書に記載のない場合は不明としたため、項目ごとの合計値は異なる(特に19年度に導入されたクイック融資の簡略化様式では記載されている項目が少ない)。

同一の借入時に複数の資金使途(投資目的)がある場合は、最も大きな借入金の投資目的を採用した。例えば、1回の借入で土地改良、農機具の取得等複数の投資目的を達成した場合で最も大きな投資目的が農機具の取得であれば、第1目的の農機具の取得を資金使途とした。

農業近代化資金は無利子資金と有利子資金の区別をしたが、スーパーL資金は経営改善資金計画書からの当協会入力データでは無利子資金と有利子資金の区別が容易でないため、無利子化措置の要件である500万円超と500万円以下に区分して分析した。20年度に省エネルギー・低コスト経営支援緊急対策利子助成金が導入されたが、スーパーL資金によるものは同様である。

本分析における資金使途の例示（農業近代化資金、スーパーL資金共通）

	資金使途	整備内容	主な例示
1	土地改良		農地造成、耕地整備、用排水施設整備、暗渠（布設工事）、灌水施設（ハウス外）
2	建物・施設の取得	1．農舎、倉庫	機械収納庫
		2．畜舎	畜舎内施設整備も含む（バークリーナー）
		3．温室、ハウス	温室内整備も含む（育成管理施設、ボイラー）
		4．果樹棚	
		5．加工・作業所	製茶建物、アイス工房、精米プラント
		6．貯蔵乾燥施設	ライスセンター、タバコ乾燥施設
		7．糞尿処理施設	堆肥舎、堆肥化装置
		8．その他	きのこ栽培施設、防霜扇、災害被害修理、柵、売店、スプリンクラー、牛群管理システム
3	農機具の取得	1．トラクター	
		2．田植機	
		3．収穫用農機具	防除機、掘取機、刈取機、乗用管理機、摘茶機、ハーベスター、スプリンクラー、ホイールローダー
		4．コンバイン	
		5．乾燥機	
		6．選別機	出荷用選別機、包装機、洗浄機
		7．給餌機	
		8．搾乳機	
		9．製茶機	
		10．その他	農作業以外の機械（籾すり機、精米機、ボイラー、コンベア、ヘリコプター）
4	運搬用器具の取得		トラック、ワゴン
5	果樹植栽・育成		
6	家畜の購入		
7	長期運転資金		出資金、リース料、権利金、研修費用、開発費
8	農地取得		
9	その他	農業用資材の取得	コンテナ、ほだ木、菌床、防風ネット、球根・苗、育成費、飼料代、短期的なもの、井戸